

(郷土) 根石小学校 3年

学区を誇りに思い受け継ごうとする根石っ子

4月～12月(26時間)

1 ねらい

本実践では、根石学区に古くから受け継がれている製品づくりの技術や学区の様子を、社会科と関連させながら学ぶことにした。実際に足を運び調べ学習を進めることで、実感を伴った理解をさせたい。さらに、自分たちの住んでいる学区の良さに気づくことができるよう調べ学習を進め、郷土への愛着をもった子供たちを育てていきたい。

『根石の学区自慢』をテーマで進める。

2 実践の概要

(1)環境の様子を知る学区探検

3年生になって初めての社会の単元に「わたしたちのまち、みんなのまち」がある。総合的な学習と関連をさせて根石学区の様子を知るために歩いて回った。学校は学区の東側に位置するため、西・南・北方面に絞った見学にした。

[1日目(2時間) 4月24日 西方面] 神社や寺が多く昔ながらの街並みが見られる。昔の市民病院(現・おかざきげんき館)の周辺は、二十七曲りが通っており、古くからのお店が並んでいる。子供たちは、昔市民病院が建っていたことを知らず、「知らなかった。お母さんに教えてあげよ。」と言った。実際に家に帰って、保護者へ発信をすることができた。

[2日目(2時間) 5月1日 北方面] 田や畑が多く、新しい家が立ち並ぶ。(資料①)小呂街道が小呂と箱柳に分かれる所に首割れ地蔵が立っている。それには、こんな言い伝えがある。ある男がその石の下敷きになってしまい、割れ目が入ってしまったそうだ。今でも小呂の人たちは、そのお地蔵さんを大切にお守りしている。この話の自作紙芝居が本校にあり、学級で読み聞かせを行った。話が終わると、「先生、他に昔からの話ないの。」と学区の歴史に興味をもった。

[3日目(2時間) 5月8日 南方面] 国道1号線と伝馬通りが東から西へと通っている。二十七曲りの道と比べると真っ直ぐな道であるので昔と現在の道路のあり方の違いを見つけることができた。

1500年前、今のカーマホームセンターのあたりに古墳があった。その古墳にまつわる話も残っている。学校のすぐ近くの八柱神社にはその古墳の一部と思われる岩がある。子供たちはこの話にも興味をもち始めた。

(2)古くから受け継がれるお酒づくり

学区の西側に320年以上続く老舗酒造の醸造所がある。(資料②)戦災によりほとんどが焼失してしまったが、幸い焼失を免れた現在の蔵で日本酒の製造を続けている。製造の工程を教えてもらったり、現在までの苦労や経験を教えてもらったりした。古くから受け継がれて



資料① 根石学区の北方面



資料② 酒造所見学

いる様子を見たり聞いたりして、「学区にもすごいところがあることを知った。」「味の秘密などをもっと調べたい。」などの感想から見られるように、さらなる探究への意欲を高めることができた。3学期にもう一度調査をし、下学年へ発信する材料にする。

(3)受け継がれる道，二十七曲り（資料③）

3年生は学習発表会で根石学区のことを紹介する音楽劇『ハロー！この町』に取り組んだ。その中で、二十七曲りのことも発表した。その後、遠足を兼ねて、スタートの冠木門から岡崎城までの9つの道しるべをたよりに実際に歩いてみた。「なんで、ここで曲がるの。真っ直ぐ行こうよ。」というA児に対して、B児が「いや、だめ。これじゃ簡単に攻められる。」こんなやりとりを聞きながら石碑が多く立ち並ぶ道を進んでいった。

岡崎城下二十七曲りのスタート地点や道が学区にあることを知っていた子供は少なく、「有名だよ、先生。すごいわね、根石学区。」と感心し、学区に愛着をもつ姿が見られた。



資料③ 二十七曲り

(4)木工場に受け継がれる手作業の技術

学区の南に位置している木工所へ見学に行った。住宅街で作業を進めている。木工所はコンピューターでの作業を取り入れているものの、組み立ては従業員の手作業で主に椅子などの骨組みを作っている。根石小学校にも本棚などの寄付をしてくださっている。

作業工程を教えてもらい、実際にエアタッカーというホチキスのような機械も触らせていただいた。子供たちは、「手作業が凄かった。」「正確によく作れるな。」と、手作業で作っていることに興味をもっていた。また、「学区の中に、このような工場があるとは知らなかった。」と学区の新しい発見に驚いている子もいた。

環境にも配慮した材料を使うことや、木屑を畜産総合センターへ運んで利用することなど、環境への取り組みにも力を入れていることに驚いた表情を見せる子が多かった。まとめ新聞を作成し、図や表を使って分かりやすくまとめる力をつけた。



資料④ 木工所見学

3 実践を振り返って

子供たちは自分たちの学区を知っているようで知らなかった。学区は広いため、友達と遊ぶ範囲も限られているのだ。狭い道が多く、昔から変わらない場所もいくつかあるようだが、子供たちにとってはそこにあるものは当然のこと。しかし、教師側が疑問を投げかけると子供たちはすぐに興味をもち調べる意欲を見せた。学区のことを知るためには、教師の支援が必要だと感じた。3学期は、自分たちが調べてきたことを下学年に発信し、根石学区の良さを伝えるとともに、学区への愛着をさらに高めていきたい。